



「自律・尊重」の心と態度を育てる魅力と活力ある学校

<https://www.nagasaki-city.ed.jp/koebaru-e/>



小江原小学校だより

光満つ丘・空と風

令和6年5月28日号

文責：秋山壽哉

「元気いっぱい！『小江原小運動会』」

5月19日（日）、小江原小学校の運動会を開催することができました。ご参観いただいた保護者、ご家族の皆さま、そしてご来賓の皆さま、本当にありがとうございました。

雲一つない青空のもと、皆さまの温かい声援をいただき、子どもたちはそれぞれに思い出の1ページを刻むことができました。



←5・6年
「ソーラン節」

3・4年→
「よさこい魂叫び」



1・2年→
「ツバメ」



今年の運動会のテーマは、『あきらめず げんきいっぱい がんばろう』でした。

この言葉に込められた思いは、運動会はもちろんのこと、コロナ禍における様々な制約ある学びや生活を経験した子どもたちだからその思いであると考えます。

経験を生かし、「あきらめない」ことの大切さに気付いた子どもたち…。そして、何事においても「げんきいっぱい」懸命に取り組む姿勢を大事にしたいとの思いにあふれた運動会となりました。

子どもたち自身が代表委員会で決定したこの言葉は、時代に照らしても大切なメッセージです。



1年生の「小学生としての運動会デビュー」、そして、6年生にとって「小学校最後の運動会」となりました。「新しい小江原小学校」を目指す子どもたちの逞しい姿、ひと回り成長した活躍ぶりなど、保護者やご家族の皆さまはもちろんですが、我々教職員にとっても感慨深いものがありました。

「ふるさと長崎に学び、 そして…ナガサキを伝える」

5月24日（金）に、5年生は「長崎市科学館」と「原爆資料館」の見学学習に出かけました。



科学館では、宇宙や地球の仕組み、科学などについて、体験を通して学びました。そして、原爆資料館では、平和の大切さ、戦争の悲惨さについて多くのことを学びました。

多様な文化が融合する「ふるさと長崎」のまちで学んだことや感じたこと、特に「最後の戦争被爆地 ナガサキ」で学んだことを、5年生は、長崎に生きる子どもとして、平和の尊さをこれからの生活と未来につないでいくことでしよう。